

1 年生高大連携授業

令和 2 年 7 月 14 日（火） 14 時 30 分～16 時 00 分

「情報モラル」

竹内和雄（Kazuo Takeuchi）先生



1. 所属部・科等

兵庫県立大学環境人間学部准教授。教職担当。

2. 自己紹介

公立中学校で 20 年間、生徒指導主事等を担当。寝屋川市教委指導主事を経て 2012 年より現職。文科省学校ネットパトロール調査研究協力者、総務省青少年インターネット WG 構成員、総務省（近畿総合通信局）「スマートフォン時代に対応した青少年のインターネット利用に関する連絡会」座長。

3. 専攻分野

生徒指導

4. 研究内容

ネット問題、いじめ、不登校等、課題を持つ子どもへの対応方法について研究している。

附属高校の生徒も参加している「ひょうご、ケータイ・スマホワークショップ」での講演・指導をはじめ、全国各地で大人から子どもまで幅広い世代に向けてネット問題についてのフォーラムなどを展開し、情報モラルの大切さを伝えている。

「情報モラル」

兵庫県立大学環境人間学部 人間形成コース

教授 竹内 和雄 先生

1. 授業内容

1) 概要

今回の連携授業は主に情報モラルとネット依存についてアンケート結果などを用いながら授業していただいた。私たちに馴染みある話題で楽しく理解しやすいように話をされていた。最後には、私たちが今後どのように向き合っていくべきかなど大変ためになる話だった。

2) 具体的な内容

日本の情報社会について

日本の未来社会のコンセプトは、**Society5.0** である。**Society5.0** とは超スマート社会のことである。10年後には今ある仕事の大半がAIの仕事になると言われている。残る仕事は、「話し合う」ことや「発表する」ことなどAIにはない能力を発揮する仕事である。例えば小学校の先生などである。

ネット依存について

世間を騒がせているコロナであるが、ネットの面でも若い世代に悪影響をもたらしている。自粛期間中ネットに接続している時間が増えたことにより、ネット依存に陥る若者が増加している。ネット依存状態が12か月続いてしまうと引き返しができなくなってしまうと言われており、入院しなければならない場合もある。また、WHO(世界保健機関)はこの度「ゲーム障害」を病気として認めることとした。

左の表はネット依存者の割合を示したものである。2012年と2018年を比べると中高生ともに

	中学生	高校生
2012	6, 0%	9,4%
2018	12, 4%	16, 0%

ネット依存者の割合が増加している。これはスマホの所持率が上がったからだとも言えるだろう

う。スマホを正しく使えていないと、不登校が増える、成績が落ちる、イライラすることが多くなる、目が悪くなるなどといった悪影響をもたらしてしまう。もう一度1人1人がスマホのルールや使い方について考え話し合う必要があるといえるだろう。

これからの日本について

ネットに書き込んだ情報はプロバイダーにより、だれがいつ書き込んだのかを特定できる。これにより過去にさかのぼることができ、就活や入試のときに調べられることがあるので注意が必要である。社会全体(政府や警察など)が今後ネット問題に力をいれることにより、裁判を起しやすくすることも可能になるだろう。ネット問題は一部の問題ではない。社会全体で向き合っていくことが大切である。即ちネット問題は文化づくりなのである。情報機器は正しく使えばとても便利なものである。大切なのは自分たちがどう向き合うかという使い方である。

2. 感想

連携授業というものが初めてで、難しいお話だというイメージがあったが先生が私たちに分かりやすいようにお話をしてくださったので興味を引き立てられる有意義な時間だった。特にこの授業の中で衝撃を受けたことは自分自身がネット依存だったということだ。利用時間の制限や、ロックをかけるなど、正しい向き合い方を見つけプラスに活用していけるよう改善していこうと思う。便利なものをどう活用し、どう発展させていくかは私たち次第なのだ実感した。今回お話しして下さったことをもとに話し合うことで、私たちの今後がいい方向に変わる気がしてわくわくしている。

記録者：27回生1年1組生徒